

「2024年度ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部1年 石橋 美空

今回の体験で感じたことは主に二つある。

まず、異文化理解について。留学は、単なる旅行とは異なり、その土地の文化を深く理解することができると思った。また、理解するだけでなく、実際に自分の意識がベトナム風に変化したように感じた。「ベトナムに染まる」「ベトナム人になる」ともいうべき感覚である。具体的には、物事をよりおおらかに受容できるようになった。ベトナムは日本と比べて、様々なことに着けてルーズだったが、同時に様々な物事への柔軟性を持っていた。日本が忘れてしまったであろうこの精神を、じっくり理解し、受け入れることができた。この国際理解は、ベトナムだけで役立つものではないと思う。近年日本に来るベトナムにルーツのある人の数は増加しているが、彼らとの友好関係を築くのに大いに役立つだろう。これらができるのは、このプログラムの2週間という通常の旅行より長い滞在期間と、現地学生との交流のおかげだと思う。ベトナムの学生とはたくさん話す機会があった。彼らはベトナムの様々なことを教えてくれた。インターネットで簡単に情報が入手できる現代だが、自分と同じ年代の人からの解説は、とても貴重なものだったと思う。そして、私たちが日本語や日本文化を彼らに解説することも多かった。外国人に自国を紹介するという体験を通して、自国を客観的に観察することができた。以上、これらの点に、わたしは留学の魅力を感じた。

次に、言語について。ベトナム語は発音が非常に難しく、学習において何度も挫けそうになった。しかし、発音はもちろん文法、単語、言語成立の歴史を学ぶ良い経験ができた。言語はコミュニケーションの手段であるだけでなく、その学習自体が国際理解となると思う。このプログラムは言語の授業が渡航前からあったのが良かったと思う。そしてベトナム語の習得は残念ながら満足にできなかったが、代わりに英語を通してのコミュニケーションを実践することができた。英語の共通語としての重要性を、改めて実感した。国際コミュニケーションのために、英会話を今よりもっと練習しようと思う。そして、これからも短期留学や国際交流、ひいては半年ほどの留学に挑戦してみたいと思う。

私は現状、海外への進路を考えてはいないが、国際理解への関心は大いに高まった。このプログラムは、私の関心の対象を大きく広げてくれたと考える。ベトナムで得た学びを忘れないようにしつつ、日々の勉学に、そして新たな挑戦に取り組もうと思う。